親和学園：第 3 次 10 年構想 5 ヵ年計画

目次

１．現状分析・認識・姿勢・課題
２．建学の理念・精神
３．将来ビジョン
４．教育理念・目標
５．経営理念・方針
６．経営戦略
７．広報戦略
８．ガバナンス
９．財政方針
10．人事方針
11．コンプライアンス
12．重要な新規事業
13．施設計画
14．特記事項及び検討課題
15 .付帯事項

神戸親和女子大学：第 3 次 10 年構想 5 ヵ年計画

目次

１．現状分析・認識
２．将来ビジョン
３．建学の理念・精神
４．教育理念・目標
５．教育研究目標
【中期目標・中期 5 ヵ年計画】
1 理念・目的に関する目標・計画
2 教育課程に関する目標・計画
3 教育研究組織の改編・拡充に関する目標・計画
4 教員・教員組織に関する目標・計画
5 学生の支援に関する目標・計画
6 学生の受入れ（入試）の実施に関する目標・計画
7 教育研究環境の整備に関する目標・計画
8 社会連携・社会貢献に関する目標・計画
9 大学の運営に関する目標・計画
10 大学の財務に関する目標・計画
11 内部質保証の体制に関する目標・計画
12 同窓会との連携に関する目標・計画
附属資料
13 予算（人件費の見積りを含む。）、収支計画及び資金計画

親和女子高等学校・親和中学校：第 3 次 10 年構想 5 ヵ年計画

目次

１．現状分析・認識
２．将来ビジョン
３．建学の理念・精神
４．教育方針
５．教育目標
６．教育内容
７．教員組織
８．教育研究支援（職員組織）
９．組織のマネジメント
10．生徒の受け入れ（入試・広報）
11．学習支援
12．進路指導
13．国際教育
14．高中運営・財務・人事
15．学校環境整備
16．新規事業
17．特記事項
18．付帯事項

親和学園:第 3 次 10 年構想 5 か年計画」

1. 現状分析・認識・姿勢・課題

（１）社会の変化 :「新しい現実を受け入れる」

現代は、VUCA の時代、つまり、Volatility（変動）、Uncertainty（不確実）、Complexity（複雑）、Ambiguity（曖昧）の時代で、未来が読めない時代と言われている。コトラーによれば、現代は変化のスピードがすさまじく速く、予測不能で Ups and Downs の激しい「乱気流の時代」（the Age of Turbulence） である。とくに、AI&IT に代表されるテクノロジーの革新とグローバル化の変化のスピードと衝撃の規模は、私たちがこれまでに経験したことがないものである。

一方で日本では、さらに超少子化と高齢化の波が押し寄せている。2030 年までの人口動態によれば、約 1000 万人が減少する。他方で高齢化も急速に進行し、人生 100 年時代とも言われる時代になった。

こうした時代の変化は、教育の在りように大きな変化をもたらしつつある。学習指導要領の改訂、大学共通入学テスト導入（内容の一部が中止）、幼児教育無償化、高等教育無償化等々、教育の施策が矢継ぎ早に実施される。教育内容の点でも、小学校における ICT 教育の活用、プログラミングの必須化や英語の教科化が実現する。学校のグローバル化も進行し、学校＆大学における留学・研修が急速に一般化しつつある。

他方で、時代の変化の中でも、多くの学校・大学に経営面で深刻な影響を及ぼしているのは、日本における人口動態の変化、少子化に象徴される人口減少である。ここでは、学園にもっとも影響のある 12 歳（中学入学年齢）と 18 歳（大学入学年齢）に焦点を当てて、その減少の推移を確認しておこう。

12 歳人口も 18 歳人口も、次の 5 年、10 年で大きく減少するが、過去を振り返っても、1986 年に約 205 万人いた 12 歳人口は、2010 年には約 119 万人にまで減少している。この減少傾向はさらに進み、2020 年には約 109 万人、2025 年には約 103 万人にまで減少する。18 歳人口はそれに遅れること 6 年で、その人口を迎える。こうした人口減少は、学校&大学経営に大きな影響を与えている。実際、大学については、10 年以上前からほぼ 4 割の大学が定員割れしており、数年後には、この割合はさらに高くなるものと想定される。

このように、「乱気流の激動」の時代と「超少子化」の時代という 2 つの時代に直面した私たちに求められることは、まずは、この時代を「新しい現実」として受け入れることである。「乱気流」も「少子化」も避けられないと認識することである。現代は一時的な「アブノーマルな」時代ではなく、「ニュー・ノーマル」な時代として認識することが必要である。さらに、こういう認識に立って新たな戦略を立て、困難を乗り越えていくことが重要である。これまでの発想に基づく計画や戦略は通用しなくなりつつあると考えなければならない。

この変化の速い時代にどう対応するかについて述べる前に、今の時代、社会や人々が学園という教育機関をどう見ているのか、そこになにを期待しているのか、その点について、一考する必要がある。この点での認識が、学園の改善・改革＆発展の前提となるからである。

かつては、学校＆大学が生徒・学生を選んでいた。カリキュラムを用意し、入学試験を実施し入学者を選考していた。選択・選考のイニシアティブは私たちの側にあった。しかし、今や、立場が逆転し、イニシアティブをとるのは生徒・学生（保護者も含めて）で、生徒・学生が入学先を選ぶ時代である。今の時代、この認識が必要である。この点についてさらにいうと、人々が学校&大学をサービス機関そのものとして見ていることを理解しなければならない。人々が期待・要求しているのは、学校＆大学が与えてくれる質の高い教育、それによって得られる体験の質である。もし、その体験が期待はずれであったら、それを提供した学校&大学は大きな代償を支払うことになる。このプロセス全体をしっかりと理解することが、今の情報革命時代においてはきわめて重要である。社会の変化とともに、学園（教育機関）に対する評価や期待も変わりつつあることを理解する必要がある。

（２）現状認識と姿勢

中学入学の 12 歳と大学入学の 18 歳に焦点を当てて、少子化の厳しい現実を指摘したが、このように少子化が進行するにつれ、本学園（中学・高校・大学）の入学者数も確実に減少している。10 年単位でみると、約 1000 名近くの生徒・学生が減少している。当然、こうした入学者数の減少は財政を圧迫し、ここ数年、資金収支レベルでも予断を許さない状況が続いている。

私たちは、ここでも、学園のこうした厳しい現実を受け入れることが必要である。その上で、この現実にどう対応し、どう未来を切り拓いていくのか、それが問題である。課題である。

現代のように変化の速い時代においては、手をこまねいて変化をやり過ごす態度でも、徒に対応に追われるだけでも、厳しい現実を乗り越えることはできない。それでは終わりを待つだけである。今、私たちはこの時代にどう対応するのか、その本気度が問われている。

私たちは、いわば「漫然と未来を迎える」のか、それとも「主体的に未来を築く」のか、その選択を迫られている。厳しい現実を考えれば、「漫然と未来を迎える」選択肢などあり得ない。

もちろん、中高・大学とも、これまで手をこまねいて「漫然と未来を迎えていた」のではない。改善・改革にも取り組んできたことも確かである。改革の中にはこれから成果が期待できるものもあり、今の段階で結論的に言うことは出来ないものもあるが、これまでのところ、現状を打破する企画・改革とはなっていないことは認めなければならない。あえていうと、改革やイノベーションの表面をなぞっているだけでは、この厳しい現実を克服することはできない。

さらにいえば、これまでの発想の改善・改革では、学園自体の存続も危ういという意識を持つことが必要だ。単なる入試改革や教育課程の修正・変更では、厳しい現実を乗り越えることはできない。「主体的に未来を築く」ためには、親和の未来を切り拓くためには、あえていえば、新しい発想のもとで改善を積み重ねるとともに、一方でイノベーションが必要だ。それも相当の、連続的なイノベーションがなければ、今後、明るい未来を切り拓くことがで

きないと考えている。発想を変え、社会の発展動向を先取りする、そのニーズを超えるイノベーションが求められている。もちろん、ここでいうイノベーションとは、教育研究の面での新たな価値の創造に関する「教育のイノベーション」である。いわば、「未来の事業」を開拓することである。

その為にも、教職員の意識改革が求められる。変化の速い時代に変わらないこと自体が最大のリスクだという認識が必要である。今こそ、長い歴史と伝統に甘えることなく、変化を怖れず、逆に変化を糧に、現状を変えていく勇気と挑戦が求められている。「未来の事業」には、これまでにない勇気と挑戦が必要だ。

終わりに、平穏で安定した時代ではなく、「乱気流」で不確実な時代において私たちにとくに必要な姿勢について整理し強調しておきたい。1つ目の姿勢は、新しい発想を見出し新しいアイデアを前向きに取り入れていく革新的な(innovative)姿勢であり、2 つ目は積極的にそれを実現すべく事業化していく積極的な（proactive）姿勢であり、3 つ目は不確実性の高い企画・事業に投資・挑戦していくリスク志向的な（risk-taking）姿勢である。受け身の姿勢、受け身の戦略では、この状況を乗り越えることはできない。私たちにとって「主体的に未来を築く」勇気と戦略をもつことが生き残り発展していく唯一の道である。

（３）課題

現状から学園が直面している課題は明確である。主な課題は次の通りである。

① 財政基盤の強化

・生徒・学生を安定的に確保する（定員の確保）

・コスト戦略と差別化戦略の均衡

・外部資金（寄付金も含む）の確保

② 教育改革

・AI&IT 時代に対応する新学部・新学科の設置及び教育課程の改革

・グローバル社会に対応する国際交流の推進：留学生の受け入れ及び派遣

・人生 100 年時代に対応する生き方教育の推進

③ 改革風土・文化の醸成

・新たな教育的価値の創造（変革）を目指す風土・文化の醸成

・変化を怖れず前向きに変わっていく勇気をもつ。

・教職員の協働と協創を促す。

④ 教職員が親和の教育理念・目的を再確認し共有すること

・親和の未来を切り拓くためにビジョン＆中長期計画を策定する。

・このビジョン＆計画を教職員に周知徹底する。

・教職員はこの実現のために協働する。

2. 建学の理念･精神

（１） 親和学園の建学の理念・精神の今日的意味

（２） 校訓の継承と発展

① 誠実

② 堅忍不抜

③ 忠恕温和

3. 将来ビジョン

（１）生徒・学生ひとり一人の個性が生かされ、その夢を実現し、社会に貢献できる女性の育成を使命とする夢のある飛躍する学園であり続ける。

（２）激動の現代社会において多文化を理解し、他者をリスペクト（尊敬）し、そして他者と協働する女性の育成をめざす学園であり続ける。

（３）社会に根ざし社会に開かれ社会に貢献する学園であり続ける。

4. 教育理念･目標

この章は、学園として基本的な路線を提示し、各設置学校がそれぞれ固有の形で具現化していくものとする。

（１）教育理念（大目標）

① 建学の理念・精神に基づき、社会において自立して活躍できる女性を育成する。

② グローバル社会において多文化に深い関心と理解をもち、他者と協働して社会の諸課題の解決に向けて努力する女性の育成をめざす。

③ 高度情報社会において、情報リテラシーに優れた知見を有するとともに、高度な情報技術を活用して、社会の発展に貢献する女性の育成をめざす。

（２）教育目標１（中目標）

① 教育理念を具現化する教育課程の質的転換を図る。

② 社会の変化と発展動向を視野に入れて教育及び組織の改革を行う。

③ 座学と体験学習のバランスを重視した教育課程を編成する。

（３）教育目標２（下位目標）

① ICT 教育を拡充する。

② 海外留学＆研修を拡充する。

③ 社会的な課外活動（ボランティア活動・クラブ活動等）を重視する。

5. 経営理念･方針

（１） 経営理念（経営軸）

① 園児・生徒・学生ファースト：生徒・学生の成長を支援することを最大のミッションとする。

② 社会の発展・変化への対応：社会の発展動向を視野に入れ、その変化に対応する過

程で親和らしい改善・改革を行う。

③ 教育の質保証：教育の質的転換を図るために安全で良質の教育環境を提供する。

④ 社会貢献：社会に根ざし社会に開かれ社会に貢献する。

⑤ チーム親和：教職員が協働＆協創する自由度の高い文化・風土を醸成し、それを生かし実現する組織を構築する。

（２） 経営方針

① 目標と計画の明確化する（数値化）。

② シナリオ・プランニング：３つのシナリオを想定する。

③ 戦略的に計画を立て優先順位をつける。

④ PDCA サイクルを重視する。

⑤ 組織のマネジメントを強化する。

⑥ 連続的に改革を行う。

6. 経営戦略

変化の早い現代､改善・改革、そしてイノベーションをめざし実現するためには、多様な戦略が必要となる。包摂的なアプローチも求められる。また、いくつかの戦略を組み合わせたり、戦略の策定を短期的に行ったり、そして時には、ピボット（方向転換）戦略を活用したりすることが有効な状況もあるだろう。以下、主な戦略を列挙する。

（１） ビジョン駆動型戦略（Vision-Driven Strategy）

（２） ブルーオーシャン戦略(Blue-Ocean Strategy)

（３） ピボット（方向転換）戦略（Pivot Strategy）

（４） その他の戦略・姿勢

７．広報戦略

（１）学園全体の広報戦略（予算規模も含めて）を策定する。

（２）AI&IT&LoT に代表される高度情報化社会を視野に入れた広報戦略を策定する。

（３）社会の学園（幼稚園・中高・大学）に対する評価・期待を念頭に、効果的な広報手段を策定する。

（４）園児・生徒・学生・保護者・同窓生等々のステークホルダーが一番の広報マンと認識し、かれらの目線・印象等、感覚的な要因を重視した広報手段を考案する。

とくに、保護者会・同窓会との連携を図る。

（５）広報手段の多様化とタイミングに留意する。

（６）広報対象に優先順位をつけ、広報費を重点配分する。

（７）学園全体の効果的な広報（中高・大学の連携）を検討・実施する。

８．**ガバナンス**

（１） 行動指針（教職員）

① 園児・生徒・学生・教職員は互いにレスペクトし合う。

② 園児・生徒・学生の成長支援をすべての教職員のミッションとする。

③ 常に高い目標を持つ。

④ 数値目標を掲げる。

⑤ 新たな価値の創造に取組む。

⑥ 新たな変化に挑戦し成長する。

⑦ 新たな発想で考える。

⑧ 逆算して考える。

⑨ アイデアのネットワークをつくる。

⑩ 他の教職員と協働＆協創を重視する。

（２） 組織（意思決定）のマネジメント

① 理事会は教育基本法、学校教育法及び私立学校法に基づき運営する。

② 理事長及びその他の理事は理事会が学園の最高＆最終的な意志決定機関であることについてその責任と職務を自覚する。

③ 理事会・常任理事会・評議委員会・経営（戦略）会議等の階層化とネットワーク化を推進する。

④ 理事長・学長・校長は５つのリーダーシップを発揮する。

・強力なリーダーシップ

・組織のマネジメント力

・逆算力

・革新的でリスク・テイキングなリーダーシップ

・他のリーダーとの連携力

⑤ 監事の役割強化

⑥ 監査法人とのコミュニケーションの活性化

⑦ 顧問制度の強化（外部とのネットワーク）

⑧ コンサルタントの活用

⑨ 教職員の役割と協働

⑩ 保護者との連携協働

（３） 評価制度の確立

① 管理職（理事長・学長・校長等々）の評価制度の確立

② 教職員の評価

③ 生徒・学生による満足度調査＆授業評価の規程化及び実施・検証・評価

④ 保護者による大学及び高中に対する満足度調査の実施と検証・評価

⑤ それぞれに評価基準を策定し、委員会を設置する。

９．**財政方針**

（１）財政の健全化

（２）財政基盤の強化の方策

（３）財政状況の周知徹底及び認識の共有

１０．**人事方針**

（１）人事計画の厳密な履行

（２）求める教職員像の明確化と処遇改善

（３）採用・昇格手続きの見える化

（４）育成方針

１１．**コンプライアンス**

（１）AI&IT 時代におけるコンプライアンスに係る規程の整備

（２）あらゆるハラスメントに対応する規程の整備

（３）教職員のコンプライアンス意識の醸成と研修

（４）情報公開

（５）評価制度の確立

１２．**重要な新規事業（検討中）**

（１）学園

① 教学方針として世界の学校及び大学との連携協定を結び、交流を発展・進化させる。

・アジア、西欧、北米等々の国々とバランスよく交流する。

・世界のトップ校・大学と交流する。

・海外からの生徒・学生を留学生として積極的に受け入れる。

② 自治体・企業・団体・国内外の大学・学校との連携協定の推進

・地元の自治体との連携事業を推進する。

・特定の分野（教育・福祉・スポーツ・情報等々）の企業・団体との連携事業を行う。

③ 大学創立 55 周年＆学園創立 135 年周年事業の実施（2021 年＆2022 年）

④ 中高と大学間における人事交流の推進

（２）大学

① 文学部国際文化学科＆心理学科の開設（2021 年）

② 教育学部開設：名称変更（2022 年）

③ スポーツ健康教育学科の開設：名称変更（2022 年）

④ 新学科（又は学位プログラム）の設置（2023 年）

⑤ 新学科（又は学位プログラム）の設置（2025 年）
⑥ 留学生センターの設置（留学生 170 人受け入れ態勢の整備）
⑦ リカレント教育の新展開（三宮センタープラザの活用）
⑧ 企業・自治体及び各種団体との連携協定
⑨ 欧米・アジアの海外大学からの留学生受け入れの推進

（３） 高中

① 国際コースの開設（2020 年 4 月～）
② 教育課程の改革：コースの整備と新設（2021 年～）
・Ｓコースの見直し⇒SS コース、SL コースの新設
・高校に「スポーツ教育コース」の設置（2022 年）
・学力格差への対応：習熟度別クラス編成（中学 2 年～）
③ 入試制度の改革（2021 年～）
・スポーツ・文化・芸術枠入試（中学及び高校）
・英語＆数学（1 科目）入試の実施
④ 強化スポーツの設定（高校バレーボール部：2021 年～）
⑤ 西神方面スクールバスの運行（2020 年～）
⑥ 生徒寮の建築（2022 年）
・帰国子女やスポーツ生の受け入れを促進するためには、保護者が安心できる生徒の寮が学内に必要。
・兵庫県だけでなく他府県からも優秀な生徒を確保するために寮が必要。
⑦ 海外留学・研修制度の拡充（2020 年～）
・世界各地の学校・大学との交流の推進
・生徒・学生・教職員の国際化の推進
⑧ 海外日本人学校との連携協定の推進（2020 年～）
・ベトナムホーチミン日本人学校　・上海日本人学校　・タイ日本人学校
・北京日本人学校　・シンガポール日本人学校　・ミラノ日本人学校

１３．施設計画

（１）親和アリーナの建設（大学：2020 年 9 月）
（２）生徒寮の建設（中高：202 年検討⇒2022 年予定）
（３）教職員住宅＆ゲストハウスの改築（大学：2021 年）

１４．特記事項及び検討課題

（１）学園

① 学園創立 135 周年（2022 年）記念事業の開催
② 大学創立 55 周年（2021 年）記念事業の開催

③ 親和インターナショナルスクールの開設の検討

・スポンサー又はパートナー（共同出資者）を募る。

・校内または統廃合された小学校等の建物・跡地利用

（２）大学

① 親和アリーナ完成記念式典及び行事の実施（2020 年 10 月）

② 大学基準協会への「認証評価」の申請（2020 年 11 月提出）

③ 改革推進会議の設置（2019 年 12 月～）

（３）高中

① 中高一貫教育態勢の整備の検討

② 改革推進会議の設置（2019 年 12 月～）

（４） 高中＆大学

① 高校&大学を通じた「10 年育成プログラム」の開設

・スポーツ健康＆教育コースの設置

・大学の教職員による支援

② 大学＆高中の教職員の交流活性化

③ 教職員の人事交流の促進

④ 海外研修及び課外活動分野における協働の実現

（５） SDGs への対応

１５．付帯事項

（１）この 5 か年計画は、理事会において承認され、評議委員会において諮問されたのちに学内外に公表するものとする。とくに教職員に周知徹底するものとする。

（２）この 5 か年計画は、毎年、検証・評価を行い、理事会及び評議員会に報告するものとする。

神戸親和女子大学第 3 次 10 年構想 5 か年計画

1　現状分析・認識

我が国における少子化の進行は、18 歳人口の大幅な減少をもたらし、今やピーク時に比べ、18 歳人口は半減している状況である。今後もその傾向は加速度的に進んでいく。18 歳人口を主たる入学者としている大学にとっては、まさに冬の時代が到来し、今後氷河期ともいえる時代へと向かいつつある。このように**私立大学を巡る環境は一層厳しく**なるとともに、社会からの大学への期待は高まる半面、**教育改革の実行や大学評価など大学の教育研究、運営に対する説明責任**も強く求められているところである。一方で、科学技術の進歩は目覚ましく、特に情報技術の発展は目を見張るものがある。AI の出現は今後の人間社会を根本から変える可能性があるといわれている。さらに、情報技術、情報ネットワークの世界的な広がりにより、国境を越えて情報のやり取りが簡単にできる時代になり、世界のボーダーレス化が進み、真にグローバル社会へと移行しつつある。このように世界の社会環境、情報環境が変化する中で、本来、社会の有り様を教育研究する大学には、こうした環境に的確に対応して、教育研究を変化させることが求められている。大学は明確な将来ビジョンをもち、変化に応じて着実な計画を立て、変化していかねば生き残ることはできないという認識に立ち、**不断に教育研究の改革**を進める必要がある。このため、神戸親和女子大学は、将来を展望し、中期目標・中期計画としての「神戸親和女子大学 10 年構想 5 か年計画」を策定し、この目標・計画を実現することによって、将来へ向けての歩みを確実なものとしたい。

第 2 次 10 年構想 5 か年計画において、課題は計画の実行・成果において、検証が不十分であったことがあげられる。特に、新学科構想、学生募集などの重要事案について、教学面、経営面から長期的な展望に立った施策が必要である。第 3 次 10 年構想 5 か年計画においては、学科再編、学生募集などの事案についてはより詳細な中長期計画を立て臨むものとする。

2　将来ビジョン

神戸親和女子大学が「目標とする将来の大学像」は、**1．学生が成長する大学（学生一人ひとりの個性と多様性が尊重され、学生が最大限に成長する大学）、2．学びの共同体の拠点大学（学生・教職員・保護者・卒業生・地域からなる学びの共同体の拠点となる大学）、3．グローバルマインドを育成する大学（異文化を理解し、他者と協働して国内外の社会的な課題解決に粘り強く取り組む国際人を育成する大学）の実現**である。

3　建学の理念・精神

建学の理念「建学の精神に則り、学問を通じての人間形成を目指し、国際的知識と視野と感覚を涵養して、世界に役立つ実践力を高め、人権への洞察を極め、未来を担う豊かな知性ある女性を育てんとする。」ことが神戸親和女子大学の建学の精神であり、SHINWA VISION　2030 により建学の精神を具現化することを目指す。

４　教育理念・目的

本学は、教育基本法(昭和 22 年法律第 25 号)及び学校教育法(昭和 22 年法律第 26 号)に則り、建学の精神に基づき、社会の発展方向を広く視野におき、学芸に関する多様な教育研究を通して豊かな教養を培い、専攻に係る学識を深めることによって、総合的判断力をもち主体的に社会に対応できる人間を育成することを目的とする。(学則第 1 条)

５　教育研究目標

（１）目指す人材像

文学部においては、豊かな教養と専門知識をもち、日本の言語文化の継承と発展を担い、国際的な視野を備えた人材、さらに地球規模の共生社会に主体的に参加する人材を育成する。

発達教育学部においては、豊かな教養と専門的知識をもち、他の人々と協力して人間の発達と教育にかかる課題に取り組み、その解決に持続して努力できる人材、さらにそのような協働の活動においてイニシアティブのとれる人材を育成することを教育目標としている。(学則第 2 条)

SHINWA VISION2030 では、本学の教育により学生に備える 3 つの力として「課題解決力」、「コミュニケーション力」、「自分の限界を超えていく力」を掲げている。

（２）教育研究目標

教育研究上の戦略目標を次のとおり定める。

戦略目標Ⅰ：大学の強みを活かし学生の最大限の成長を支援

①小規模大学ならではの個別性、多様性を尊重したきめ細かな教育

②親和学園全体としての交流・教育・研究の推進

戦略目標Ⅱ：地域の教育・研究・実践拠点

①「スポーツセンター」を拠点とした地域貢献及び大学スポーツの振興

②自治体、企業、NPO との連携・協働により、地域社会の課題解決に役立つ教育・研究の推進

③リカレント教育の展開により、多様な人々が集う学びの共同体の構築

戦略目標Ⅲ：社会のグローバル化に対応する教育・研究

①世界基準の教員養成

・世界最先端の大学教育学部・附属学校園と研究・教育に関するネットワークの構築

・情報通信技術、人工知能などを活用した教育・保育方法の開発

②グローバル化に対応できる国際人の育成
・幅広い文化理解と語学力により、日本や世界を舞台に活躍できる国際人の育成

上記の（長期）目標の実現のため、中期５か年の計画を立案し、自己点検・自己評価を継続して行う。以下に５か年計画における重点項目を挙げる。
A 学生の成長を支える教育システム、カリキュラムの充実
B 大学が地域や大学関係者の学びの拠点となるような体制の構築
C 学生におけるグローバルマインドの育成
D 安定した学生確保のための入試制度の充実と広報活動
E 大学運営の改善・改革

上記重点項目を含め、【中期目標・中期５か年計画】を以下のとおり定める。なお、中期計画の実行にあたってはアクションプランを作成し、具体的な数値目標をたて実行する。
以下、A,B,C,D,E は重点項目のアクションプラン、数字は優先順位を表す。

１理念・目的に関する目標・計画
（1）理念・目的を検証し、大学の施策に反映させる。
〇学園の設置理念を実現する方策を検討し大学の将来構想等に反映
（2）理念・目的を達成するための事業を計画,実施する。
〇SHINWA VISION の実現に向けて具体的な実行計画を策定する。
（3）理念・目的を周知・公表し、関係者で共有する。
〇学園の設置理念、校訓について、学長講話や教職員研修などを通じて、繰り返し説明し、学生、教職員の理解を深める

２教育課程に関する目標・計画
（1）ディプロマポリシーを検証し、必要に応じ改定する。
〇学則、ディプロマポリシーに則り学生の育成ができたかどうかアセスメントポリシーにより検証（A-5）
（2）カリキュラムポリシーを検証し、必要に応じ改定する。
〇ディプロマポリシーとの関連でカリキュラムポリシーを検証（A-5）
〇社会の動向に応じてカリキュラムを常に見直す
（3）時代の変化に対応して教育課程の改革・改善を図る。
〇共通教育改革の実行（A-6）検討を本年度より開始、次年度より改編
オフキャンパス教育の検証とオンキャンパス教育との融合
（4）最新技術を活用して教育方法の改革・改善を図る。
〇ICT を活用した教育方法の開発・実践(A-10)

（5）大学院教育の充実

○公認心理師、臨床心理士合格者数の増加のための施策を実施

毎年各 5 名の合格者輩出を目指す。大学院留学生チューター制度の検討。

（6）学生の適正な成績評価を可能とするシステムを構築する。

○ポートフォリオの構築、学修成果の可視化(A-7)

○ルーブリックにおる評価の導入（現在行っているが、より充実した評価システムを検討）

3 教育研究組織の改編・拡充に関する目標・計画

(1)時代の変化に対応して学部・学科の改組・転換を図る。

○学部・学科の改組・転換、学科定員の再検討、大学院教育の充実などの計画の検討(A-1)(A-2)(A-3)

○他の大学の大学院との連携を進め、共同事業を企画実施

(2)地域における学び・研究のプラットフォームとして機能する。

○大学が地域や大学関係者の学びや研究の拠点となるよう体制の整備(B-1)

(3)大学のグローバル化を目指した組織の充実を図る。

○学生の海外留学・研修の充実。留学生支援。教員の国際的な研究の支援(C-1)(C-2)(C-3) (C-4)(C-5)(C-6)

○学生の留学・海外研修を支援する基金を創設

○海外留学、研修の拡充と海外インターンシップの充実

(4)教育研究支援のための施策の充実を図る。

○教育研究支援（研究費、在外研究）の充実(C-6)

4 教員・教育組織に関する目標・計画（教員人材確保、ＦＤ）

（1）教員組織の編成方針を見直し、策定する。

○教員編成方針を見直し、改善し、長期計画及び改組転換計画に基づいた採用と教育課程の改革に対応した教員組織の検証と見直し(A-9)

○女性教員の割合を 50%に近づくように努める。実務家教員の割合は 30%を目途。教員の年齢構成の是正、50 歳以下の教員の割合を増加させるよう努める。

（2）教員の教育力の向上システムの充実を図る。

○ＦＤ等による教育方法の改善により教員組織を活性化

（3）教員業績評価の処遇への反映

5 学生の支援に関する目標・計画

（1）キャリア支援体制を充実する。

○キャリア支援体制の検証と改善(A-8)

○新たな就職支援イベントの実施（公務員対策プログラム開始）
○企業との連携の強化（ものづくり企業へのバスツアーなど）
○留学生の就職支援の拡充
（2）学生生活支援体制を充実する。
○学生生活支援体制の検証と改善(A-11)
○新たな給付型奨学金を導入
○障がいのある学生の支援策の充実
（3）学生の健康管理体制を充実する。
○学生の健康管理体制の検証と改善(A-12)
（4）課外活動支援体制を充実する。
○課外活動支援体制の検証と改善(A-13)
強化スポーツクラブの拡充

6 学生の受入れ（入試）の実施に関する目標・計画
（1）入試制度の改革・改善、情報提供の充実を図る。
○入学者選抜方法の見直し・改善など入試制度の改革・改善・簡素化及び、受験生への情報提供の充実(D-1)(D-2)(D-3)(D-4)
○入学定員 1.1 倍の学生の確保
○留学生の受け入れを拡充、在籍者数 170 人を目標（国内の日本語学校からの積極的な受け入れ）
○受験生に判りやすいアドミッションポリシーへの見直し
○入試データの整備と有効活用

（2）多様な広報活動を展開し、募集活動の強化を図る。
○計画的、戦略的な広報活動の展開(D-5)(D-6)(D-7)(D-8)(D-9)
明確な出口イメージを広報に活かす。他学との差別化。
○SNS を活用した広報の展開
○協定校、スポーツ協定校への学生募集活動の強化・拡充
○高校訪問の成果の検証と改善

7 教育研究環境の整備に関する目標・計画
（1）学生の成長を促す教育研究環境等の整備・拡充を図る。
○学生の成長を最大限支援するよう教育研究環境等を整備・拡充(A-4)(A-14)(B-1)(B-2)
○ラーニングコモンズの利用拡大
○女子大にふさわしい学習環境の整備

(2) 地域貢献、大学スポーツの振興を図る。

○スポーツセンターを拠点とした大学スポーツの振興、地域貢献 (B-4)(B-5)

(3) 世界基準の教員養成拠点として基盤強化を図る。

○世界最先端の大学教育学部・附属校園と教育・研究に関するネットワークの構築 (C-6)

(4) グローバル化に対応できる国際人育成のための教育環境を創出する。

○国際人育成のための教育環境を整備(C-1)(C-2)(C-3)(C-4)(C-5)(C-6)。語学教育強化。

(5) 大学において研究倫理遵守の取組を進める。

○規程に則り研究倫理遵守の取組を遂行

8 社会連携・社会貢献に関する目標・計画

(1) 自治体、企業、NPO との連携・協働を推進する。

○自治体、企業、NPO、学校との連携・協働を推進する学内体制の強化(B-1)(B-3)

○神戸市北区、神戸電鉄、親和スポーツネットとの地域貢献事業の協力実施（子育て支援）

○アイナック、ビクトリーナとの連携事業の展開

(2) 地域住民の生涯学習機関としての機能を拡充する。

○公開講座やリカレント教育(日本語教室など)の展開により、地域住民の生涯学習機関としての機能の拡充(B-5)(B-6)(B-7)

○神戸親和女子大学三宮リカレントセンターの開設（履修証明プログラムの開設など）

(3) 高等教育機関としての機能強化を図るため、大学間連携を推進する。

○海外の大学も含め大学間連携の推進・強化(C-6)

9 大学の運営に関する目標・計画(E)

(1) 機動的な大学運営ができるようＰＤＣＡ実施体制により大学運営の改善改革を図る。

○運営組織を検証し、ガバナンス体制を強化・改善(E-1)(E-2)

○委員会の整理・合理化

(2) 適正な教職員数の確保を図る。

○適正な教職員数と人件費支出計画の策定

(3) 計画的かつ機動的な広報を行う。

○広報に関する方針を策定し、機動的な広報の展開

(4) 教職員の資質向上を図るため研修を充実する。

○教職員研修の計画的実施

(5) 大学の運営を支える事務組織を整備する。

○事務組織の検証と改善

(6)人権および個人情報保護の対策を強化する。

〇教職員の人権および個人情報保護に関する体制の検証と改善

10 大学の財務に関する目標・計画(E)

（1）安定的な財務運営を図る。

〇的確な見通しに基づく財政計画の策定

〇財務関係比率の改善（人件費比率の減少、教育研究費比率の増加等）

〇大学の運営に必要な財政基盤の確立

〇寄附金募集活動の強化

〇研究資金等の外部資金を獲得

11 内部質保証の体制に関する目標・計画

（1）社会への説明責任としての内部質保証のための体制を整備する。

〇内部質保証のための体制整備(E-3)

〇IR データの有効活用

12. 同窓会との連携に関する目標・計画

(1)同窓会との連携強化を図る。

〇同窓生相互のネットワーク強化

〇**同窓会との定期的な連絡会の開催**

〇同窓生の生涯学習の機会強化(B-8)

〇同窓生の在学生へのキャリア支援(B-9)

附属資料

13 予算（人件費の見積りを含む。)、収支計画及び資金計画

（1）学生生徒数と学生生徒等納付金収入計画

（2）教職員数と人件費支出計画

（3）施設・設備改修保全等の計画

（4）消費収支と資金収支（部門勘定）残高の計画

親和女子高等学校・親和中学校：第３次 10 年構想５か年計画

１．現状分析・認識

2020 年、教育は大きく変わります。新学習指導要領が導入されるとともに、大学入試が変わり、英語教育も変わります。学校教育は、「知識の習得」を中心とした従来の学習から、「知識の活用」を目指すスタイルへと大転換を迫られます。

言うまでもなくこの背景には「AI の発展」や「グローバル化」という急激な社会の変化があります。

科学技術の発展によって世界は目まぐるしい変化を続けています。

2030 年頃には第４次産業革命とも言われる IoT やビッグデータ､AI 等をはじめとする技術革新が一層進展し、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会(Society5.0)の到来が予想されています。「10 年～20 年後には日本の労働人口の約 49%が人工知能やロボット等で代替可能に」なると言われている一方で、これまでなかった仕事が新たに生まれることが考えられます。また、あらゆる場所でグローバル化は加速し、情報通信や交通分野での技術革新により、人間の生活圏も拡がっています。また、世界の国々の相互影響と依存の度合いは急速に高まっており、地球規模の人類共通の課題も増大しており、それらの課題解決に積極的に取り組むことも求められています。

このような社会を生きていく、あるいは創造していく子ども達には、社会の変化に柔軟に対応し、主体的に判断し行動する力や、答えのない課題に対して納得解や最適解を見出す力など、変化の激しい時代、先行きの読めない時代を生き抜くために必要な力・人間力が求められています。

学校基本調査(H31.5.1 現在･速報値)によると､2019 年度小学校６年生の人数は神戸市で 12,774 人、その後３年後(小学校３年生)まではほぼ横ばいながらも４年後(小学校２年生)には 12,370 人と激減します。阪神南地域では 2019 年度小学校６年生の人数は 9,266 人、その後２年後(小学校４年生)には 8,801 人と激減します。）、児童の数は年々減少し、依然として厳しい状況が続いくことになります。さらに地域によっては公立志向、また共学志向は依然として根強く、立女子校にとっては厳しい外部環境が続いています。

一方で関西圏の中学入試の動向は、近年私学志向が強まってきており、2019 年度入試においても入試初日午前の受験生は１万７千人を超え、10 年ぶりに前年度より増加しましたし、３年ぶりに１万７千人を超えました。また卒業予定の小学生の中学受験率は 9.51％で昨年の 9.45％より上昇、この受験率は 2014 年の 8.91％から５年連続で上昇しています。

特に近年女子の受験者が増加しています。大学入試改革やその先の社会で必要とされる力を身につける環境として私学志向が高まっていますが、女子児童の保護者にその傾向が強いとも言われています。また、共学志向の中、近年やや減少傾向にあった女子校が増加の気配を見せており、女子校人気復活の兆しとしたいところです。

また大学附属校の人気が加速しています。大学入試改革への不安や、大学定員の厳格化による人気大学の難化などにより、早い時期から大学までつながる環境を考えている保護者が増えているようです。

このよう中、本校においては、中学校入学者数は定員を大きく下回り、180 人の入学を目指すのが精一杯の状態が続いています。高等学校においては高校募集定員の半分すら満たすことができず、毎年全校生徒数は減少を続けています。当然ながら財務状況においても赤字予算が続いています。（下表参照）

また、進学校といいながら近年進学実績が低迷していることも志願者減の一因でもあります。多くの志願者を集めることにより、入学者数を確保することはもちろん、より意欲のある生徒を得ることができ、引いては進学実績も向上させることができます。

このような状況を打開するために、まずは何よりも入学者を確保することです。そのためには私学として児童・生徒・保護者にとって魅力ある教育を提供することが全てであり、本校として今後このような認識のもとに、「第２次 10 年構想５か年計画」を踏まえ、ここに新たに親和女子高等学校・親和中学校（以下、「高中」という。）の「第３次 10 年構想５か年計画」を策定する。

〈年度別中高入学者数及び在籍者数〉

	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019
中学入学者数	188	180	183	177	166	175	174
高校入学者数	－	－	4	8	12	15	14
中高在籍者数	1,429	1,348	1,283	1,216	1,126	1,067	1,051

２．将来ビジョン

本校では建学以来、その時代において、自立し、社会で活躍できる女性を育成することを目指して教育を行ってきました。社会の変化や環境は急激に変貌し、特に現代社会ではＡＩやＩｏＴなど様々な技術の発達により、なお一層、目まぐるしく変化し続けています。社会が変化すると、求められる人材や必要な知識・能力も変化します。その変化に対応できる力を持った人材を育成するには、時代の変化に応じ、教育の内容を変えていく教育改革が必要となります。

本校は開校以来 132 年の歴史を持ちますが、この間も社会の変化に柔軟に対応し、教育改革を行い、その時々に求められる教育を行ってきました。

今、社会はかつてない激しい変化の時代に突入しています。中学１年生が卒業する６年後の社会すら想像ができない時代なのです。子どたち一人ひとりが、予測できない変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して、自らの可能性を追求し、よりよい社会と幸福な人生の創り手となる力を身に付けられるようにすることが一層重要となっています。このような時代をたくましく生き抜く生徒を育成するために、本校も不断の改革を進めていく必要があります。

今、共学志向の中、132 年の歴史と伝統を有する本校が今後も女子校の本流と存続し、女子校をリードしていくためには、新しい女子校の魅力、イメージを打ち出すとともに、教育制度が変化していく中、新たなコースの開設や共学化や中等教育学校化など、学校のあり方そのものについて、あらゆる可能性について検討する必要があります。

併せて、既存の生徒募集市場への広報活動の拡充や、新たな市場開拓のための広報戦略も必要です。

親和女子高等学校・親和中学校は建学の理念を堅持し、さらに発展するために将来ビジョン(目指す学校像)を以下のように設定します。

(1) 親和の良き伝統を継承しながら、時代の変化に対応した新しい教育的価値を不断に創造し続ける学校を目指す。
(2) 中高一貫教育の特色を生かし、質の高い教育を展開する学校を目指す。
(3) 生徒の学びの居場所が保障され、保護者が安心して預けられる学校として社会的評価の高い学校を目指す。
(4) 社会の変化に柔軟に対応し、ＩＣＴ教育やグローバル教育を推進する。
(5) 変化の激しい社会をたくましく生き抜く力の育成を図る。
(6) 女子校としての新しい魅力を構築する。
(7) 中等教育学校への移行や新コース設置等、学校改革について検討を行う。

３．建学の理念･精神

明治 20 年、1887 年、校祖友國晴子は女子に教育は必要ないという時代にあって、女子の教育の必要性を説き、親和女学校を再興しました。爾来、本校はこのときの建学の理念・精神を忘れることなく 132 年の歴史を歩んできました。

その理念･精神はこれからも変わることなく継承していかねばなりません。

(1) 「誠実・堅忍不抜・忠恕温和」を校訓として、豊かな人間性を育む。
(2) 広い視野と知識を持ち、国際社会において主体的に活躍できる女性を育成する。
(3) 他者を理解し、他者と協働して、国際社会の課題解決に取り組む女性を育成する。

４．教育方針

現代の社会は知識・技能基盤社会であり、新しい知識・情報・技術が社会のあらゆる領域での活動の基盤として重要です。この知識・情報・技術をめぐる変化は、加速度を増し、さらにグローバル化の進展等によってひとつの出来事が広範囲かつ複雑に伝搬し、社会の変化を正確に予測することはますます困難になっています。

このような状況下において、社会が求める知識・技能、思考力・判断力・表現力等、学びに向かう力・人間性の涵養といった資質･能力を身につけることはもちろんのこと、人生 100 年時代をより豊かに生きるため、生涯にわたって自ら学習し、自己の能力を高め、働くことや地域や社会の課題解決のための活動につなげていくことが必要です。

また、変化の激しい時代を生き抜いていくためには、生涯にわたって質の高い学びを重ね、それぞれの立場や分野で成長し、新たな価値を生み出し、輝き続ける力を身につけることも求められます。その際、溢れる情報の中から必要な情報を読み取り、進歩し続ける技術を使いこなすことができるよう基本的な情報活用能力を身につける事も重要です。

(1) 夢と志を持ち、可能性に挑戦するために必要となる力（確かな学力、豊かな心、健やかな体等）を育成する。
(2) 基礎的・基本的な知識・技能と思考力・判断力・表現力等，主体的に学習に取り組む態度を育成する。
(3) 確かな学力を身につけさせ、数理的理解力及び情報運用能力を育成する。
(4) 主体的に変化に対応しつつ、学んだ知識・技能を実践・応用する力，更には自ら問題の発見・解決に取り組む力を育成する。
(5) 他者を尊敬し、他者と協力して、物事を達成する態度と能力を育成する。
(6) 伝統と文化を尊重し，国際社会の平和と発展に寄与する態度や，主体性・積極性，異文化理解の精神等を身につけてグローバルに活躍できる人材を育成する。

５．教育目標

上記の教育方針を実現するために、以下のように教育目標を設定する。

「学力」と「国際力」、「人間力」を兼ね備え、新しい時代を切り拓く個性豊かな生徒を育成する。

(1) 人間力の育成
　人としての心を育み、個性豊かで探究力に富み、将来を切り拓く生徒を育成する。
(2) 学力の育成
　基礎的な学力に加え、思考力・判断力・表現力や探究力を持つ生徒を育成する。
(3) 国際力の育成
　変化する世界の動向を見据えたグローバルな視点と能力を持った生徒を育成する。
(4) 情報力の育成
　先導的なＩＣＴリテラシーを培うとともに、世界に情報を発信できる生徒を育成する。

６．教育内容

(1) 教育課程及びシラバスの見直し

① 新学習指導要領に基づく教育課程の編成

・高等学校新学習指導要領（2022 年度より年次進行）に対応した教育課程の編成

② 新学習指導要領に基づくシラバスの作成

・中学校新学習指導要領（2021 年度全面実施）に基づくシラバス作成

・高等学校新学習指導要領（2022 年度より年次進行）に対応したシラバスの作成

(2) 新時代を生き抜く力を育む教育の推進

① 「探究学習」の充実

・他校や大学生・大学院生等を招聘した学校外での探究発表会の実施

・探究学習においてＳＤＧｓの取り組みを実施

・兵庫県主催のサイエンスフェア等、外部の発表会への参加

・国際コースにおけるグローバル探究の実施

・県主催サイエンスカンファレンス等、英語による探究発表会への参加

② 授業改善の推進

・主体的・対話的で深い学びの視点に立った一層の授業改善

・アクティブラーニング等研究委員会を中心とした校内研修の拡充

・校外研修への積極的参加

・外部に開いた「親和教育フォーラム」の定着と一層の充実

・評価委員会の活性化と生徒授業アンケートの活用

③ ＩＣＴ機器を活用した授業の推進

・中学１年生からのタブレットの導入

・タブレットの機器の見直し（iPad と Chrombook の検討）

・ロイロノート等、学習支援アプリの導入

・Wi-Fi 環境の整備

・ＩＣＴに係る教員研修の充実

④ 思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性の育成

・主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善の推進

・探究学習の発表の機会の拡充

・生徒が主体的に活動できる校外活動プログラムの充実

⑤ 多様な能力を伸ばす教育システムの構築

・英語、数学等の習熟度別編成授業の実施

・学校内予備校の設置

(3) コースの充実・発展

① Ｓコースの進化と一層の特色化

・高校ＳＳコース、ＳＬコースの特色ある教育プログラムの構築

・中学Ｓコースの新たな教育プログラムの構築

② 総合進学コースの一層の特色化

・総合進学コースのキャリア教育を推進するための新たな教育プログラムの構築

・キャリア教育の充実を図るためのキャリアノートの活用

③ 国際コースの充実

・新たな国際交流プログラムの構築（海外提携校の拡充）

・特色ある教育活動の構築（大阪イングリッシュビレッジ訪問、英語キャンプ等）

・国際交流協会及びＪＩＣＡとの交流促進

・国際コース指定校推薦枠の獲得

７．教員組織

(1) 人件費の抑制を踏まえた教員人事計画

① 新コース等を踏まえた今後の教員採用計画の策定

② 長期採用計画の策定

(2) 校務分掌の見直し

① 各種委員会の再編

・新しい教育課題に対応した委員会の設置及び類似委員会の統合

② 部・学年の再編

・各学年に学年副主任を配置（担任又は副担任兼務）

・探究学習推進室の設置

③ その他

・特進コース主任、国際コース主任の設置

・図書館組織の再編と学習支援機能の充実

(3) 校長のリーダーシップ

① 副校長、教頭の校長補佐業務の明確化

② 副校長及び校務運営委員の役割と責任の明確化

(4) 教員の指導力の向上

① 研修制度の充実

② 授業評価アンケートの活用と授業改善

③ 人事交流研修制度の構築

④ 指導教諭の配置

８．教育研究支援（職員組織）

(1) アクティブラーニング等研究委員会の活動の活性化

① アクティブラーニング等研究委員会への顧問の配置

・神戸親和女子大学の教授の顧問委嘱

(2) 神戸親和女子大学との連携

① 神戸親和女子大学との共同研究の実施（アクティブラーニング等）

② 教員研修への講師招聘

(3) 親和教育研究所との連携

① 親和教育研究所の講演等への参加

９．組織のマネジメント

(1) 職員会議

(2) 各種委員会

① 委員会の枠組みの再編

・各委員会の統括者の再編

(3) 副教頭制度の活性化

① 副教頭の業務の明確化と権限委譲（軽微なもの）

10．生徒の受け入れ（入試・広報）

(1) 入学者の安定的確保（中学 180、高校 60）

① 中学校・塾との関係強化

・中学校訪問及び塾訪問の拡充

② 求める生徒像と入試制度

・さらなる選抜方法の多様化と選抜尺度の多様化

・小学校新学習指導要領に基づく入試の実施（英語の必須化）

③ イベントの拡充
・多様な選抜制度に応じた説明会の実施
・各地域での説明会の拡充
④ ホームページの拡充
・ホームページ更新回数の増加
・ホームページの内容の充実
(2) 多様な能力を持つ生徒の確保
① 多様性特別選抜入試の充実
・学力試験を課さない入試の拡充（一芸一能に秀でた生徒の獲得）
・一教科入試の実施（数学）
② 帰国子女受け入れの拡大
・海外現地入試の拡充（シンガポール、ベトナム、インド等）
・海外拠点地域の設定と戦略的広報の展開
③ 指定校推薦提携校の拡充
・海外日本人学校との提携の拡充（シンガポール、ベトナム、インド等）
・国内私立小学校との提携の拡充
・近畿圏外（首都圏）の連携協定校の拡大
(3) 高校募集の充実
① 中学校訪問の強化（認知度向上）
・中学訪問の機会の拡充
・全中学生配付パンフレットの充実
② 普通科改革（特異性、個性のある類型の検討）
・３カ年独立コースの設置（スポーツ等）
(4) 少子化、女子教育離れ（学校存立の危機）の現状意識の共有
① 教員研修会の実施
・県内私学の入試状況の共有
(5) 生徒寮の建設

11. 学習支援

(1) 学習支援
① ＩＣＴを活用した教育
・タブレット（ｉＰａｄ）の見直し
・Ｗｉ－Ｆｉ環境の拡充
・電子教科書及び電子教材の拡充
・学習支援アプリの導入
② ラーニングコモンズルームの活用
・ラーニングルームの稼働率の向上
・チューター制度の拡充（チューターによる補習講座）
③ 図書館の活用
(2) 生徒指導
① モラル・マナー教育指導
(3) 奨学金
① 入学時の成績優秀者へのＡＢ奨学金の見直し

12. 進路指導

(1) 進路目標の設定

① 難関国公立大（東京阪神等）　現役１０・現浪２０、医学部医学科現浪５
　難関有名私大（関関同立等）　現役のべ１００

・放課後個別学習支援システム（受益者負担）の導入

・親和ゼミ及び英検対策講座の拡充（平日放課後実施）

・東京キャピタルツアー、サイエンスツアーの実施

(2) 新大学入試への対応

① 記述式問題への対応

② 英語４技能の向上

③ 思考力・判断力・表現力とともに主体性・多様性・協働性の育成

④ 高校時代の活動履歴の充実（ポートフォリオ蓄積）

⑤ 校外活動の充実を図るための灘区との連携強化

13. 国際教育

(1) 国際交流プログラムの充実

・長期留学プログラムの拡充

・異文化探究研修の複数プログラム化

・世界の有名大学訪問プログラムの構築（大学と共催）

14. 高中運営・財務・人事

(1) 教職員の意識改革

① 教員研修会の実施

・私学存続の危機感について

・教育課題について（いじめ、人権教育、新学習指導要領、大学入試改革等々）

(2) 評価体制の確立

① 授業評価の在り方の検討と活用について

(3) 財政健全化への取組

① 生徒納付金、補助金収入の確保

② 寄付金収入の確保

③ 人件費の抑制

・再任用教諭、特任教諭、特命教諭の有効活用

④ 管理経費・教育研究費の精査

(4) 人事方針の明確化

① 中期採用計画の策定

・５年スパンの採用計画

② 長期採用計画の策定

・10 年スパンの退職に伴う採用計画

(5) 労務管理

① 時間外勤務の制限

② 休日出勤の管理（振休取得管理）

③ 部活動の計画的実施及び管理

15. 学校環境整備

(1) 大規模改修工事計画の策定

① 外壁改修工事

② 体育館屋根改修工事

③ 緑化整備

・正門前の植栽の伐採

(2) 教室改修工事

① 教室内ＬＥＤ工事

② 講堂内ＬＥＤ工事

③ 大会議室の多目的教室化

④ 生徒ロッカー交換

(3) その他

① デジタル案内板の設置

② 職員室・事務室のリニューアル（オープンドア化）

③ 食堂の充実

④ 神戸市西神方面からのスクールバスの運行

16. 新規事業

(1) 国際コース設置及び同コースの国際交流プログラム構築

(2) 神戸親和女子大学の科目履修制度の策定

(3) 東京キャピタルツアー、サイエンスツアーの実施

(4) 世界の有名大学訪問プログラムの構築

(5) 教員人事交流制度

(6) 学校環境整備に係る工事

(7) 新コースの検討

・高校Ｓコースの更なる細分化による新コース（メディカルサイエンスコース等）の設置検討

・中学校における新コースの設置

・スポーツ、芸術系のコース設置の検討

(8) 強化クラブの設定

17. 特記事項

18. 付帯事項